

目が覚めたら

同級生の女の子と

入れ替わっていた?!



目が覚めると俺は女の子になっていた…  
しかも、隣には俺の好きな女の子が…



スヤー

んん？

どういうことだ……？

なんで俺がこんなところでミユちゃんと……

全然わからないし、理解できない……

しかも裸だし……



裸……？

これ……ミユちゃんの裸……

綺麗な……胸に……

「はあ……はあ……」

ゴクリ……

スヤ……

スヤ……



「ん？あれ……？」

「ああ……お、おはようございます……」

まずい……起きた！

理由はわからないけど、こんな状況……

確実に警察案件だ……



「先に起きてたんだ…」

「おはよう♡リサ…♡」

ん…？ああ…そうか、俺、今は女の子に…

リサ…？リサって…

もしかして、この身体って…

んんん…



ミュちゃんとりさちゃんは同性のカップルだ…

俺の通う学校でも二人は有名だ…

二人は常に一緒にいて、最初はどの学校にもいるような

仲の良い友だちだと思っていたが、どうやらそれは違ったようで

本当は付き合っているとのことだった。



The image depicts two anime-style female characters standing in a brightly lit hallway. Both characters are wearing identical school uniforms: a white long-sleeved shirt with a dark purple tie, a dark blue pleated skirt, and red thigh-high stockings. The character on the left has short brown hair and orange eyes, while the character on the right has long orange hair and red eyes. They are both smiling slightly. The background is a soft-focus hallway with light blue walls and a bright light source on the left.

二人は男子達から人気だったが、お互いに男には

興味がないうようで、どんな男子からの誘い等も全て無視していた。

もちろん、俺の好きなミユちゃんも俺には全く興味はないだろう……

An anime-style illustration of two young women in school uniforms. They are standing side-by-side, holding hands. The woman on the left has short brown hair and orange eyes, while the woman on the right has long orange hair and red eyes. Both are wearing white long-sleeved shirts with dark purple ties and dark blue pleated skirts. The background is a soft, light blue gradient.

実際二人がどこまでの関係かはわからないが、

もし、今の状況が夢ではなく現実なら……

二人の関係は……かなり……

「リサ……?」

「どうかした?」

「え? あっいや……なんでも……」

「? そう? ならいいんだけど……」

「まだ時間あるし……もう少し寝るね……?」

「あっああ……」



「リサも一緒に寝よう?♡」

「昨日の夜はあんなに激しかったんだから疲れてるでしょ?♡」

昨日の夜……? 激しい……? まさか……

「あつ……そ、そうだね……」

「ちよ、ちよつと俺……」

「俺?」

「あついや! わ、私……トイレ行ってから……」



「ふふ♡変なの…寝ぼけてるの?♡」

「そう…かも…あはは…」

「わかった♡じゃあ、先に寝てるから…」

「また、戻ってきてね?♡」

「う、うん!わかった!」

「じゃあ、行ってくるね…」



いやあ……びつくりした……

ミユちゃんのあの姿……

……可愛かったな……

ああ、いや！その前にこの状況だ！

これが夢じゃないなら何でこんなことに……？





「マジかよ……」

本当にリサちゃんに……

ゴクリ……

これが女の子の身体……

「すげえ……」

ちよつとだけ…

ちよつとだけ触つてみて…

「おお…」

めつちや柔らかい…

女の子のおっぱいってこんなに…



ちよつと……気持ちいいかも……

「んっ……」

何だか……下の方が……

熱くなつて……きたかも……

ゴクリ……流石に……ここはマズいよな……？

で、でも……我慢できない……かも……



「あつ……はあ……」

すごく濡れてる……温かい……

ぬるぬるで……すごく気持ちいい……

やばい……リサちゃんの身体で俺……

俺は……なんてことを……



△ちゅっ！  
△ちゅっ！  
△ちゅっ！





「はあ……はあ……」

すごい……やばい……

前までやってたオナニーより気持ちよかった……

「んっ……はあ……」

リサちゃんには……悪いことしたかも……

ひとまず……ミユちゃんのところに戻ってみるか……



「ただいま……」

寝てるよな……？

ずっと裸でいるのか……？

でも、俺はさすがに何か着ておこう……

パタッ



えっと……パンツは……

結構そこら中に服とか散らばってるな……

昨日は激しかったって言ってたけど……

477

これは……その結果のことなのかな……？

ゴクリ……女の子のパンツ……

なんか……すごく悪いことしてる気分になってきた……



でも仕方ないことだから……

そ、そうだ……もし、このまま身体が元に戻った時に

裸だったら、リサちゃんがかawaiiそうだよ！そう！かawaiiそう！

だから、これは正しいことだ……！

「ん……っ」

履いてしまった……女の子のパンツ……

今は女の子だから間違いじゃないんだらうけど……

でも……やっぱり……

罪悪感……



『上の服どつちの服かな……』

まあ……多分どつちだろう！

『ん？リサ……戻った？』

『あつ……うんうん』

『それじゃ……一緒に寝よう……』

『あれ？なんで私の服着てるの？』

『え？』

間違えた！2択を外した！

『それに……そのパンツも……』

パンツもかよ！マズい！



「ふふん♡普段は頼んでもしてくれないのに♡」

「え?」

「恥ずかしいってしてくれないじゃん♡」

「もしかして、今日はすじゅく♡り♡り♡♡♡」

「やばい…かわいい…」

「そんな表情もできるのか…?」

「それにこの感触…すじゅく♡♡♡♡」

あま



いや！そういうことじゃない！

い、今の状態を考えろ……

と、とりあえず……服の間違えは……

大丈夫ってことだよな……？

「ねえ♡リサ……聞いている♡♡」

「あっう、うん」

「えへへ♡♡」

か、可愛い！可愛いよ！



「早く寝よう♡」

「それとも…続きする?♡」

「続き…?続きって…まさか…」

「つ、続き…?」

「昨日の続き♡朝イチセツ●スする?♡」

え…やりたい…

「…うん」

あ…口が勝手に…



「にひひ♡ノリノリのリサ好き♡」

「じゃあ……しちやおうか?♡」

リサちゃん……ごめん……

君の代わりに俺が楽しんでしまおう……

「リサ……♡」

「ミュちゃん……」

「ちゃん付けなんて珍しい♡」

あつ……やべっ……気をつけないと……

やべえ……

すごく近い……ああ……可愛い……

こんな近くで見れるなんて……

「リサ……♡」

ゴクリ……



「ん……♡」

め……めっちゃ……柔らかい……

「ん……」

今は……俺、ミュちゃん……キスしてる……

あの憧れの……



「口…開けて♡」

「え…?」

「舌…入れるから♡」

「え!」

何!今…なんて…!!



「あつ! うっん!

「はああ♡んん♡」

く…口の中で…

ミユちゃんの舌が…!

「あつ…はあ…」

「んんっ♡」

す、すごい…何だこれ…



気持ちいい……

これが……ディープキス……

こんなに気持ちいいの……？

「んん……はあ……んっ」

「んふふ♡もっと……絡めて♡」

「んっ……」



「はあ♡」

「ああ……」

頭がポーとする……

今は俺、ミュちゃんど……

してたんだよな……？

目が覚めたときはよくわからなかったけど……

……今もだけど……

でも、この瞬間はすごく幸せな気がする……

夢ならずつと覚めないで……

「脱がすね♡ふふ♡」

「あっ！え！」

「もう乳首勃ってるね♡」

「んっ……ああ……」

「舐めて欲しい？♡」

「えっ……」

「ミュちゃんに……俺の……」

「う、うん……」

「ふふ♡今日のリサ素直だね♡」

「いいよ♡舐めてあげる♡」

「おっ！えっ！」



ム

「あっ！んんっ！」

うわあ…何だこれ…

くすぐったいけど…それ以上で…

気持ちいいかも…

「んっ…ああっ…」

たく  
やく

毛  
ミ

「気持ちい?♡」

「あっ…う、うんっ」

「この勃ってる乳首を…♡」

「んんっ! ああっ!」

「し、舌で乳首を…」

「やばい…やばい…」



「すごい感じてくれてる♡」

「はあ……はあ……」

乳首……めっちゃ気持ちい……

なんか……また下の方が熱くなってきた……

「リサのおっぱい私好き♡」



「朝からリサのおっぱい舐められて…」

「すごく嬉しいな♡」

「そ、そう？はあ…はあ…はあ…」

「やばい…俺の身体じゃないはずなのに…」

「嬉しい…」

「それじゃ……ごっちも♡」

「あつ！」

「あれ？♡もう濡れちゃってる？♡」

「今ので濡れちゃった？それとも……」

ゴクリ……

「さっき……トイレ行った時にシてた？♡」

「え！」



「ふふ♡凶星♡♡」

「今日のリサ…すごく素直だし…エッチだね♡」

「まるで誰かと入れ替わってるみたい♡」

「え！そ、そんなこと…」

嘘…バレてる…？

「そんな日があっても新鮮でいいよね♡」

「私はどんなリサでも受け入れるよ♡」

だ、大丈夫かな…？



「それじゃ…♡♡♡♡♡」

「いただきます♡」

「んっ！あぁっ！」

「すごい敏感になってるっ♡♡やっぱりさっつきしてたんだ♡」

「私も誘ってよ♡」

「こんな感覚…初めてだ…」



「どんどんエッチな汁出てきているよ♡」

「気持ちいいでしょ?♡」

「はぁ…あつ…」

力が抜けていく…

「すごい♡美味しい♡」

何だ…この高揚感…



熱いのが…込み上げてきた…

やばい…なんか…

イキそう…

「はあっ…はあ…」

「ん？♡そろそろイキそう？♡」

「いいよ♡私のク●ニでイって♡」



「あああつ！はああつ！！」

「んっ♡ああは♡」

「すじっ♡すじっ♡」

気持ちいい！やばい……

女の子の身体でイクの気持ちいい……



「ふふ♡」

「はあ…はあ…」

「温かい♡すい♡」

「もう、びちよびちよ♡」

「はあ…いいめん…」

「我慢できなくて…」

「何言ってるの？♡謝ることじゃないじゃん♡」



「ほら……次は私を気持ちよくして♡♡」

「あっ……」

柔らかい……ミユちゃんの……

お、おっぱい……!?!?

やばい……俺……今……

ミユちゃんの……!!

「沢山気持ちよくして♡♡」

むん♡

♡



ダメだ……我慢できない！

「ん！」

「あっ♡」

「ちよつと激しいかも♡」

やばい！ミユちゃんの身体……！

すごく柔らかくて……温かくて……

気持ちいい！



「んんっああ!♡」

乳首…乳首…

「すごい吸うね♡」

「んっ♡今日のリサ…赤ちゃんみたいで…」

「可愛い♡もっと、吸ってもいいからね♡」

そんなこと言われたら…

本当に止まらなくなる…



「はあ♡はあ♡」

「私のおっぱい美味しい?♡」

「うん…とても♡」

「嬉しい♡」

「ミュちゃんとかこんなことができるなんて…」

「幸せすぎる…」



ミュちゃん…嬉しそう…

俺の…気持ちいのかな？

「もっど…」

「うん♡」

「はぁ♡はぁ…♡」



「一緒に気持ちよくなろう♡」

「…うん♡」

「それじゃ…お股合わせて…♡」

「…うんっ♡」

ああ…温かくてヌルヌルで…

この感じ…めっちゃ好き…

「はあ…ん…♡」



「んっ♡動かすよ♡」

「あっ…んっ♡」

擦れると…もつと気持ちいい…

ミュちゃんと股を…擦り合わせてる…

すごい…エロい…



「もっとエッチな音立てよう♡」

「はあ…はあ…」

腰が…勝手に…

「うん♡もっと動かして♡」

すごい…音が…



やばい……またイクっ

「あつ……い、イクっ……」

「もうちよつと我慢して?♡」

「そうしたら私もイケるから♡」

「一緒にイこう?♡」

い、一緒に……ミュちゃんど……

「う、うん……が、頑張る……はあ……」



「ああ♡気持ちいい♡」

「そろそろイケそう♡」

「もう…はあ…げ、限界…」

「ふふ♡あつ♡いいよ♡」

「いって…♡一緒にイこう♡」

「んんっ…!」



「あああつ♡」

「はあああ♡」

感じる…感じる…

股から…ミユちゃんの…

おま●こから熱いのが…

す、すごい…擦ってただけなのに…

こんなに…気持ちいいなんて…



トト

「はあ……はあ……♡」

「一緒にイケたね♡はあ♡」

「う、うん……♡んっ♡」

「それじゃ……体勢を変えて……」

「濡れたところ……綺麗にしようか♡」

「え……?」



「舐めあいっこだよ♡」

「ちゃんと綺麗に舐めてね?♡」

「こんな目の前に…ミユちゃんの…」

「おま●こ…」

「キラキラしてて…すごい…」

「エロい…ゴクリ…」

「舐めて…いいんだよね…?」



「んっ!♡」

「リサのおま●こ♡」

この感覚…やばい…好き…

「ほらほら♡沢山舐めてよ♡」

「…うん♡」





「もっと……中の方まで……♡」

「広げて……綺麗に……して♡」

ミュちゃんの……おま●こ……すごい♡

ああ……ミュちゃんも俺の……

広げて……中まで……来てる……

女の子の身体……めっちゃいい……



「そろそろ……次の……しよっか?♡」

「次の?」

「うん♡」

「どんなのだろう……?」

「すごいドキドキするけど……楽しみ……」



「起き上がって♡」

「これ…リサにも使ってみてみたいんだ♡」

「それは…?」

「何言ってるの?♡昨日…リサが私に使ったんじゃない♡」

「そ、そうなの!？」

「これすごく気持ちよかったから♡」

「リサも味わって♡」



「スイッチを入れて♡」

「すごい動いてるけど…！」

まさか…これを…な、中とかに…？

AVとかでしか見ないけど…だ、大丈夫か…？

「もっと、沢山…気持ちよくなってる♡」

「それじゃ…入れてくね♡」



「んんっ! ああっ! ♡」

は、入って...来た...!

俺の...中に...この感じ...

やばい...変になるっ...

「はあっ! あっ...!」

「ふっ...♡すいっごっしょっ♡」

リサちゃん...こんな使ったのかっ!?



「ふふ♡すごい気持ち良さそう♡」

「昨日…私もすごく気持ちよかったから♡」

「共有できて…嬉しい♡」

「はあ♡ああ♡」

「き、気持ちいい…♡」

中でグリグリされるの…やばい…

こんなの…すぐに…



「だ、ダメっ…」

「い、いくっ…!」

「あはは♡そうだよね?♡」

「これすごく気持ちいいもんね♡」

「またイっちゃうよね♡」

「私も昨日は沢山イっちゃったからわかるよ♡」

「いいよ♡沢山イって♡」





「あああああつ♡」

もうダメだあ！気持ちいことしか考えれない！

「すごい♡今日は沢山噴くね♡」

「可愛いよ♡リサ♡」

「新しい表情もつと見せて♡」

「はあ……♡はあ……♡」

「やば……♡♡」

気持ちよすぎる……

リサちゃん……ごめんね……

君の身体で……めつちや感じちやつてる……

「ねえ♡まだイケるよね?♡」

「はあ……はあ……」





「次は別の…繋がるう？♡」

まだ…そんなアイテムが…

もうどうしてでもなってるから…

「ほあ♡うん…♡」

「いよいよ…♡♡♡」

キュン♡

「ああ……♡入った♡」

「はあ……♡すごいっ……♡」

「繋がっちゃったね♡」

「うんっ♡」

本当に……玩具なのに……

繋がった気がする……

「嬉しい♡ミュ♡」

「私も♡リサ♡」



「んんっ♡あっ♡」

「おっ♡はあっ♡」

う、動いてるのがわかる……

この感覚を……今……

ミュと共有してるなんて……

「あっ♡はあ……♡」

「き、気持ちいいねっ♡」

「うっ♡ん♡はあ……あっ♡」

リサちゃん……しばらく……

このまま……この身体を……

「んっ♡はあん♡」

滴って……ミユの愛液と混ざり合ってるのがわかる……

本当に……一つになっていくみたいで……

幸せだよ……

「もう一度……一緒にイキたい♡」

「本当に……今日は素直だね♡」

もう変に思われて……バレてもいい……

「いいよ♡一緒にイこう♡」



「あつ♡はあつ…あつ♡」

やばい…いいイクツ!

こんな…気持ちいいんだもん…

我慢は…もう…無理…

「んんっ♡ああつ♡」

「はああ♡」

また…一緒に…

「幸せ…♡」



「はあ♡はあ♡」

「朝から…こんな♡」

「もう汗だく♡」

「シャ、シャワー…浴びようか？」

「うん♡でも、少しだけこうしてたい♡」

「…うん♡」



「リサの心臓……すごいドキドキしてる♡」

「それは……あれだけしたら……」

「ふふ♡そうだね♡」

「でも、いつもとなんか違う気がするの……」

「さすがに……もう……」

「でも……どんなリサでも愛すよ♡」

「仮に今日だけ違ってもいい……♡」

「身体に感じた温かさは変わらないから♡」



「そんなことあるはずないだろうけどね！」

「ふふ♡愛してるよ♡リサ♡」

…ごめんね。

でも、本当に口に出すのはもう少し待ってもらおう…

「…私もだよ♡」



「…そろそろ動かないと危ないかもね」

「準備もしないとだし…学校間に合わなくなるかも…」

「でも…もっとこうしてたいし…んんっ♡」

俺もだよ…

「ねえ！放課後…またしよう？♡」

「え！…うん♡」

「にひひ♡やった♡」

「じゃあ…シャワーいこうっ♡♡」

んんっ

んんっ



「はああ……すごい汗かいちゃった♡」

「そうだね」

「まさか……リサがあんなになるとは♡」

普段のリサちゃんってどんな感じなんだろう……

「ん？どうしたの？♡もしかしてさっきの思っ出してる？♡」

「ち、違うよ！」

「ふん♡」

♡ちゅ♡

♡ん♡

♡

♡

♡





「はぁ♡気持ちいい…♡」

「そうですね？♡」

「私…リサの気持ちいい場所…」

「知ってるから…♡」

「沢山気持ちよくしてあげる♡」

「んっ♡あぁ♡」



「ねえりサ♡」

「はあ…んっ?♡」

「私のも…触って?♡」

「触りっこしたいの♡」

「え…いいよ♡触ってあげる♡」

「ミュちゃんのおま●こ…」

「沢山触って…感じてもらいたい…♡」



ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

「んっ♡そう…♡」  
「気持ちいい♡」

「ミユのおま●こ…♡ふこふこで…♡」

「触ってて気持ちいい♡」

「リサのも♡」

ニッ

「あっ♡そっ♡…♡」  
「ふん♡♡」

「うん♡ゾクゾクしちゃう♡」

「じゃあ、ここを重点的に…♡」

「あっ…♡んっ…♡♡」

キエッ  
おっ



「んんっ♡」

「はあ♡んっ♡」

「頭が…溶けちゃいそう…」

「もっと絡めて…♡」

「もっと…触って…深くまで♡」

指先から伝わる温かさと…  
口に流れ込む…温かさ…  
やばい…本当に…気持ちいい…



「私……いつちやうかも♡はぁ♡」

「うん♡私もイク♡んっ♡」

「また……一緒に♡」

「んっ♡あっ♡」

「はぁ♡はぁ♡」

「はあ……♡はあ……♡」

「力……抜けちゃった♡」

「ふふ♡私も♡」

「リサ……♡」

「ずっと一緒にいてね♡♡」

「ミュちゃん……」

「……うん」



「少しだけ……このままです……♡」

「遅刻しちゃうよ……？」

「いいよ……たまには……♡」

「うん……わかった♡」

騙してるみたいで……辛いけど……

ごめんね……二人とも……



「リサの心臓の音…」

「すごく伝わってくる♡」

「え！」

「心臓の音って…落ち着くよね…♡」

「ずっと聞いてられちゃう♡」

「なんか…今のミュちゃん…」





よし♡

よし♡

♡

「よしよし……♡」

「んっ♡ありがとうっ……♡」

「ああ……落ち着く♡」

「このまま……」

「一緒にいたらな……」

「流石に急がないとかな!」

「うん! やつぱりこの時期に遅刻はよくないかも!」

「そうだね! 急いで着替えよう!」

「やつぱり...女の子の下着穿くのはなんか...」

「リサ...急がないと!」

「あつうん!」



あれ・・・ブラってどうやって・・・？

全然、止まらない・・・！

どうなってんだ？

「どうしたの？」

「あっ・・・いや・・・」

「ん？ブラ着けれないの？」

「う、うん・・・」

？





「そんなに疲れちゃった?♡」

「珍しいこともあるね♡」

「着けてあげるよ♡」

「あっありがとう...」

「なんとかなりそうだな...」

「よし！準備できた？」

「うん！大丈夫！」

「じゃあ、急いで行かないと！」

「まだ急げば電車間に合うかな！」

「とりあえず、走ろう！」

…  
カチャ

…  
カチャ





ガタン

「ん？」

「あれ……？」

俺……なんで電車に……？

さっき……ミユちゃんと……

あれ？駅に間に合ったっけ？

グズ

グズ

ガガ

あれ……？

身体が元に戻ってる……

え？ゆ……夢？

「マジか……」

現実だと思ったのに……

「はあ……」

でも、不思議だったけど……

すごい幸せだったな……

いつか、あんな関係になれたらな……

ゴト



さて……今日も頑張るか……

「あっ……」

ミユちゃんとりさちちゃんだ……

今日はやけにくっついてるな……

「あつ……」

「ん？」

リサちゃんど目があつた？

なんか付いてたかな……？



あれ？なんで顔を赤らめて…

「あのさ……お前……」

「え！な、何！？？」

どうした！？？いきなり……

「い、いや……やつぱりらら……」

「リサ？どうかした？」

「ああなんでもない……行くら……」

「うん♡」

ソワ

ソワ





あの表情……

もしかして……

本当に入れ替わってたりして……？

考えすぎかな……

でも……あの違和感……

リサちゃんが俺なんか話しかけようとするなんて……

「リサ…なんか今朝となんか違うくない？」

「あんなに素直だったのに…♡」

「はあ？なんだよそれ？」

「変なの♡」

「変なのは…もう知らない！」

「なんで怒るの？リサあ♡」

まさかね…













































































































